太郎坊宮

太郎坊宮は、東近江の西に位置する赤神山の中腹にあり、山頂と麓の間に鎮座する神社です。この山は神聖な場所とされ、神々が宿ると信じられています。神社の創建は 600 年頃とされ、その高所にあることから「天空の宮」とも呼ばれています。現在、境内には約 150 基の木製鳥居が立ち並び、勝運の神をはじめとする神々を祀る複数の建物があります。

徒歩で参拝する場合、742 段の石段を登って境内に到達します。そこからは、田園風景や東近江市街、さらに遠くには鈴鹿山脈を望む壮大な景色が広がります。都市化される以前は、東近江大凧が揚げられる沖野ヶ原の広場も一望できました。赤神山や太郎坊宮、そして沖野ヶ原で舞い上がる大凧を描いた版画は 18 世紀初頭から数多く制作されており、東近江の凧揚げ文化の長い歴史を物語っています。

現在も多くの人々が勝利祈願、幸福、災難除け、開運、商売繁盛を願って太郎坊宮を訪れています。